

1	正負の数：正負の数 符号のついた数	名前	年	組	番
		/ 10 点			

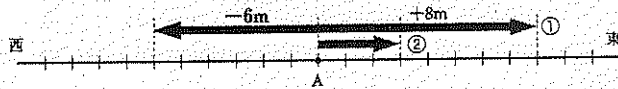
問題 次の□にあてはまるものを書き入れなさい。

- (1) 0℃より10℃低い温度は、 -10°C と表すことができ、「マイナス10℃」と読みます。
- (2) 整数には、1, 2, 3のような正の整数と、 $-1, -2, -3$ のような負の整数と、0があります。
- (3) 1000円の収入を+1000円と表すことにしたとき、 -500 円は500円の支出を表しています。
- (4) 正の整数のことを「自然数」ともいいます。
【注意】 0は自然数にはふくまれない。

問題 次の数量を、+、-の符号のついた数で表しなさい。

- (1) 体重が2kg増加したことを+2kgと表すとき、体重が1.5kg減少すること。
 ●増加を+の符号で表しているため、反対の減少は-の符号で表す。
【ポイント】 反対の性質をもつ量を、正の数、負の数で表すことができる。
 -1.5kg
- (2) A地点から北へ20m移動することを+20mと表すとき、A地点から南へ10m移動すること。
 -10m
- (3) 今日の最高気温の予想が、前日の最高気温より2℃高いことを+2℃と表します。前日の最高気温が17℃で今日の予想最高気温が16℃のとき、今日の予想最高気温の前日との比較。
 ●前日より1℃低いので、-の符号をつけて-1℃とする。
 -1°C

問題 地点Aから東へ8m移動することを+8mとして、矢印で下図①のように表しました。次の問いに答えなさい。



- (1) 矢印②を+、-の符号を使って表すとどのように表せますか。
 $+8\text{m}$
- (2) 西へ6m移動することを、図中に矢印と数値で表しなさい。
 ●西の方向へ移動するので、左向きに矢印と-の符号をつけた数値で表す。

16-60-7-1 44-001-01-1
©TOKYO SHOSEKI

1	正負の数：正負の数 符号のついた数、 数の大小	名前	年	組	番
		/ 100 点			

問題 次の問いに答えなさい。

- (1) 次の数量を、+、-の符号のついた数で表しなさい。
- ① 2500円の収入を+2500円と表すとき、2500円の支出。
 ●収入が+なら、支出は-で表す。
 -2500円
- ② 23kgの増加を+23kgと表すとき、14kgの減少。
 -14kg
- (2) 下の表は、ある店の1週間の弁当の販売数です。水曜日の販売数を基準にしたときの水曜日～日曜日の販売数を、多い場合は正の数、少ない場合は負の数で表しなさい。

曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
販売数	92	86	85	76	83	104	123

●水曜日の販売数が基準なので、85との差に符号をつける。

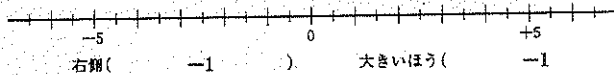
水曜日() 金曜日()
 土曜日() 日曜日()

問題 次の問いに答えなさい。

- (1) 次の各組の数の大小を、不等号を使って表しなさい。
- ① $-2, -1.5, 0$
【注意】 負の数は絶対値が大きいほど小さいことに注意。
 $-2 < -1.5 < 0$
- ② $+0.8, -1.3, +0.05$
 $-1.3 < +0.05 < +0.8$
- ③ $-\frac{1}{2}, +\frac{1}{3}, +\frac{1}{2}$
 $-\frac{1}{2} < +\frac{1}{3} < +\frac{1}{2}$
- (2) 絶対値が3である自然数を答えなさい。
【ポイント】 負の数は自然数ではないので、-3は適さない。
 3

問題 次の問いに答えなさい。

- (1) 正負の数を用いて表すことができるものは、どのような性質をもつ量ですか。
 (反対の性質)
- (2) 数直線上では、-3と-1のどちらが右側にありますか。また、そのことから、どちらが大きいと判断できますか。



16-60-7-2 44-001-01-1
©TOKYO SHOSEKI

1	正負の数：正負の数 符号のついた数、 数の大小	名前	年	組	番
		/ 24 点			

問題 ①符号のついた数

+3や+5のような数を正の数といい、 -2 や -0.5 のように負の符号のついた数を「負の数」という。

温度が0℃より10℃高いときは、 $+10^{\circ}\text{C}$ と表す。0℃より10℃低いときは -10°C と表し、「マイナス10℃」と読む。

整数には、正の整数、0、負の整数があり、正の整数を「自然数」ともいう。

②数の大小

数直線の右の方向を「正の方向」といい、数直線上で右にある数ほど「大きい」といえる。

また、数直線上で、ある数に対応する点と原点との距離をその数の「絶対値」という。

問題 次の数量を、+、-の符号のついた数で表しなさい。

- (1) ある山の標高(海面からの高さ)は2568mです。この山の標高を基準として、高い場合を+、低い場合を-で表すことにしました。このときのA山(標高2077m)の高さ。
 $2568 - 2077 = 491$ より、491m低いので、 -491m
- (2) 学校の正門から北へ100m移動することを+100mと表すとき、学校の正門から南へ200m移動すること。
 ●北と南は向きが反対なので、北へ移動することを正の数(+)を、南へ移動することは、負の数を使って表すことができる。よって、 -200m 。
- (3) 海面から5mの高さを+5mと表すとき、海面から2mの深さ。
 ●深さは、海面からの高さで反対だから、負の数を使って表すことができる。よって、 -2m 。

16-60-7-3 44-001-01-1
©TOKYO SHOSEKI

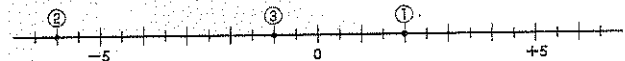
問題 下の表は、あるレストランで新メニューの販売を始めてから4日間の、新メニューの販売数です。1日目の販売数を基準にしたとき、2日目～4日目の販売数を、多い場合は正の数、少ない場合は負の数で表しなさい。

日	1日目	2日目	3日目	4日目
販売数	63	59	76	61

●基準は1日目の販売数なので、63との差を考える。
 2日目は、63より63-59=4少ないから、負の数で表すと、 -4 。
 3日目は、販売数が多いので、76-63=13より、+13。
 4日目は、販売数が少ないので、63-61=2より、 -2 。

問題 下の数直線上に、次の数に対応する点を表しなさい。

- ① +2 ② -6
【注意】 数直線の目盛りにも注意。下の数直線では、1目盛りが0.5である。
 ③ -1



問題 次の各組の数の大小を、不等号を使って表しなさい。

- ① 0, +1 ② +2, -2
【ポイント】 正の数は絶対値が大きいほど、負の数は絶対値が小さいほど大きいことから判断する。
 $0 < +1$ $-2 < +2$
 ●正の数は0より大きい。 ●正の数は0より大きく、負の数は0より小さい。
 ③ $-0.5, -2, +1$ ④ $-3, -5, -7$
 $-2 < -0.5 < +1$ $-7 < -5 < -3$

●数直線左にある数から順に並べ、<でつなげばよい。

問題 次の数の絶対値を答えなさい。

- ① +1.5 ② -1.5
 1.5 1.5
【ポイント】 数直線上で、ある数に対応する点と原点との距離が絶対値だから、+1.5と-1.5の絶対値は、1.5で等しい。絶対値を求めるには、その数の符号をはずせばよい。

16-60-7-3 44-001-01-2
©TOKYO SHOSEKI

1	正負の数：正負の数 符号のついた数、 数の大小	名前	年	組	番
		/ 9問			

問題 1 1 次の数量を、+、-の符号のついた数で表しなさい。

(1) 今日から3日前を-3日と表すとき、10日後。

(+10日)

(2) 数直線上で、0より6の距離だけ右にある点に対応する数。

●数直線では、0(原点)より右側は正の数に対応している。

(+6)

(3) 数直線上で、0より7の距離だけ左にある点に対応する数。

(-7)

(4) 赤組と白組で綱引きをしました。綱のまん中の印が、赤組側に50cm移動したことを-50cmと表すとき、印が白組側に80cm移動したこと。

●反対側に移動したので、+とする。

【解説】このような場合、どちらを+に決めたかがポイントである。左右は関係ない。

(+80cm)

問題 2 次の問いに答えなさい。

(1) 次の数の絶対値を答えなさい。

① -99.9

(99.9)

② $-\frac{2}{5}$

($\frac{2}{5}$)

③ +0.12

(0.12)

④ -145

(145)

(2) 2つの負の数があります。一方の数の絶対値が0.35、もう一方の数の絶対値が $\frac{1}{3}$ であるとき、2つの数の大小を不等号を使って表しなさい。

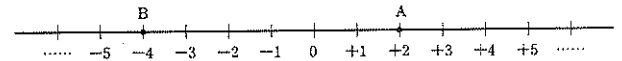
●絶対値の大小を比べる。負の数なので絶対値の小さいほうが大きい数である。 $\frac{1}{3}$ は、0.33...なので0.35より絶対値が小さい。

($-0.35 < -\frac{1}{3}$)

2	正負の数：正負の数 数の大小	名前	年	組	番
		/ 15問			

問題 1 次の□にあてはまるものを書き入れなさい。

(1) 下の数直線で、点Aに対応する数は $+2$ で、点Bに対応する数は -4 です。



(2) 大小を表す記号<、>のことを $\frac{あらいすう}{不等号}$ といいます。

(3) 数直線上で、ある数に対応する点と原点との距離を、その数の $\frac{あらいすう}{絶対値}$ といいます。

問題 2 次の問いに答えなさい。

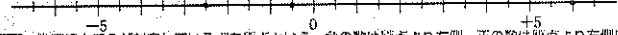
(1) 下の数直線上に、次の数に対応する点を表しなさい。

① -2.5

② +6

③ $-\frac{1}{2}$

● $-\frac{1}{2}$ は-0.5なので、原点より左側の-0.5の点。



【解説】数直線上で0に対応している点を原点という。負の数は原点より左側、正の数は原点より右側に表す。

(2) 次の各組の数の大小を、不等号を使って表しなさい。

① -8, -12

【解説】数直線上で右にある数ほど大きいことから考える。負の数は、絶対値が大きいほど小さいことに注意しよう。

($-12 < -8$)

② $+\frac{1}{3}$, $-\frac{1}{3}$

($-\frac{1}{3} < +\frac{1}{3}$)

③ -0.5, +3, -0.32

($-0.5 < -0.32 < +3$)

問題 3 次の問いに答えなさい。

●数直線上で、その数に対応する点と原点との距離なので、+、-

(1) 次の数の絶対値を答えなさい。の符号をとった数になる。

① +3.6

(3.6)

② -3.6

(3.6)

③ $-\frac{1}{2}$

($\frac{1}{2}$)

④ +55

(55)

(2) 2つの負の数があります。一方の絶対値が7、もう一方の絶対値が13であるとき、大きいほうの数を答えなさい。

●負の数は絶対値が大きいほど小さい。

(-7)

3	正負の数：加法と減法 加法(1)	名前	年	組	番
		/ 16問			

問題 1 次の計算をしなさい。【解説】同符号の2つの数の和は、絶対値の和に共通の符号をつける。

① $(+5) + (+5)$

② $(+3) + (+8)$

● $(+5) + (+5)$

● $(+3) + (+8)$

$= + (5 + 5)$

$= + (3 + 8)$

$= +10$

$= +11$

(+10)

(+11)

③ $(+2) + (+10)$

④ $(+4) + (+1)$

(+12)

(+5)

⑤ $(+0.6) + (+1.3)$

⑥ $(+\frac{1}{2}) + (+\frac{1}{2})$

(+1.9)

(+1)

⑦ $(+2.4) + (+1.5)$

⑧ $(+\frac{1}{4}) + (+\frac{1}{8})$

(+3.9)

($+\frac{3}{8}$)